

司令長官

幕僚

海軍

第六機隊第一〇〇〇番機 九月三十日

大正三年九月九日

川 進達

平戸艦長幸田銈太郎

海軍省 海軍大臣 青木 村建雄 殿

戦時日誌提出ノ件

一軍艦平戸戦時日誌 (自大正三年九月一日) 査冊

右提出ス

(終)

機隊第一〇〇〇番機 二二二二二

大正三年
九月一日

九月二日

<p>火曜日 正午位置 <small>北緯三十四度四十九分 東經一百九度五十分五秒</small></p>	<p>天候半晴 湿度八十五度 晴雨計三二 <small>風向東 風力一</small></p>	<p>旗艦失刺号本艦砲台砲台今午他世係、向午平戸八下哨区 <small>全部ノ哨戒也</small></p>	<p>行動 <small>艦隊司令部「下」哨区全部ヲ移動哨戒 伊集院信管裝着 艦隊司令部</small></p>	<p>兵器 <small>六吋砲彈丸信管六四。個裝着右ノ砲丸全數五分三信 管裝着右方結了六三吋砲彈丸信管四一。個裝着右</small></p>	<p>水曜日 正午位置 <small>北緯三十四度四十九分 東經一百九度五十分五秒</small></p>	<p>天候晴 湿度八十五度 晴雨計三二 <small>風向南東 風力一</small></p>	<p>報告 <small>一、陸軍運送船降、間接砲撃、他各各隊ハ先見告前 哨区、高シ他各隊、降後七二九降是也</small></p>
---	---	---	--	---	---	---	--

九月五日

兵書	行動	命令	兵書	行動	<p>二十六駆逐隊司令部、其ノ有區ニ在リテ駆逐隊一隊ヲ又チ其ニ 驅逐隊司令部、其ノ隊ノ隻ヲ一日使直佐世保・田嶋軍 需品補充及ヒ必要ニ修理ヲ加ヘ命令ヲ持シタルシ</p>
砲隊整備	砲隊整備	<p>大晴晴 湿度高 晴雨計三〇・二 風向 南東 風力 〇・一</p> <p>機織機等ヲ平戸橋ノ側電ノ明直ヲ蒙リ佐世保ニテ軍需品 補充及ヒ必要ニ修理ヲナシ後命令ヲ持ス</p>	水曜日	砲隊整備	<p>正午修置 北緯三〇度四十分 東経 東経 西三九度五十分 東経</p> <p>機織機 機織機 機織機</p>
砲隊整備	砲隊整備	<p>移動頃初 午後六時半命令、基ヲ晴武ヲ撤シ佐世保ニ 向</p>	水曜日	砲隊整備	<p>機織機 機織機 機織機</p>

九月四日

金曜日 在野保軍港十五番浮標

天候晴 湿度八七度 晴雨計三〇・一云 風向 南東 風力 〇・一

分連

提陣、信辨 吾レ午前二時五分迄使用中、第四在室決米ノ重

油、引大レ三時三十分全ク硝火死傷者ナシ損害ナク、詳細取

調中右下取敢報告ス

行動

午前二時五分至五分島沖航行中使用中、第四在室塔

水中、浮遊ガ重油、引大レ火災ヲ起ス、俟テ總員ヲ防火

配置、就カシテ現機ヲ停止シ、煙消硝防、近事午前三

時四十分鐘大執隊ヲ待テ、午前五時十九分在野保、向

午前八時五十分入港十五番浮標、取置箇 石炭二百噸

搭載

兵員 第四在室大災ノ為、高ノ声通話機、電路高ノ声通話機

全用電鐘全用指米器修理請求

機関

午前二時三十分機関中使用中、第四室壁障板水上
ニ煤じん重油引火事相、猛烈な火災、すなわち機関一時
主機機ヲ停止シテ消火ニ從事シ同三時四十分鎮火ス火
災ノ原因ハ重油唧筒ノ部及噴燃器ノ部ヲ考テ究
明下セル重油力考水面ニ浮ヒ構造上ヨリシテ唧筒ノ効
力不完全ニ結果長時日、航海ノ間次第々其量ヲ
増加シ室内ノ熱気ト相俟テ灰落ノ火気引火是元
ト認ム

本航海ニ於テモ缶水ノ消費量甚ク多ク船中初メ約三
昼夜ノ間ハ七哩速力ヲ石炭消費額一昼夜約九十
噸内外ナリシモ甚大ニ苦心調査ノ結果其後ハ次第々
減少シ缶水ノ消費量モ一昼夜約五十噸トシテ石炭
消費額モ六十噸ノ間トナリ

九月五日

令達
報告

土曜日 佐世保軍港十五番浮標

天候晴 温度七度 晴雨計器二

風力。一

平戸橋密着。七時四十分火災報告提出存如し

(第一艦隊司令官及呉鎮守府司令官)

火災報告ノ件

本日午前二時二十五分生月島沖航行中使用中ノ第一艦隊
 室火災ノ報、接シテ、直ニ防火部署ニ報告シ、機関長ヲ多
 量ニ防火ノ局、當ラシメ、一面火災ノ捕達ヲ防クノ目的ニ
 下甲板第八區海水ヲ注キ、其面を壁古石ノ石灰層ニ注水
 充テ、火ノ勢ヲ盡シ、且ニ在室ノ出火ノ煙ハ、捕獲ニシテ、静息
 スルノ状ニシテ、機関長、命シテ下甲板第一区ニ火煙ヲ消シ、在
 室ノ内、降下シ、機関長ノ下甲板ニ通ル空孔ヲ遮断シ、機関長ヲ
 捕ラシメ、火勢ヲ盡シ、機関長ヲ三時四十分令リ鎮火スルニ至

ンリ鎮火後附近重油庫内ノ温度ヲ測定シタルニ幸ニ著シク高
 昇ノ様相ヲ示シテ最早ニ延焼ノ憂ヲキク認メ解散ヲ命ジテ火
 災ノ原因ハ概圖及寸田竹矢衝ノ始末書ノ如ク艦底海水ノ氷
 面ニ浮遊セル重油カ圧落ノ大氣ヲ引火シタルモノトシテ本職監
 督不充分ノ致ス處恐懼ノ事ニ堪ヘズ然レ共此火災ハ能ク乗
 員一同能ク其被害者ニ於テ其職責其ノ守リ殊ニ火災ノ強
 烈ニ時ニ當リ本職ノ命ニテ奮テ正室内ニ降下シ火災ヲ鎮
 火セシメ且下士卒ニ命ジテ勇敢ニ操縦ハ最モ價値有ル火
 價値正モ多ク且附言スルヲ得ル本職ノ最モ喜ブ所ナリ
 損害ノ個所存如シ
 罐室内ノ諸電路全部 圧力計四個 蒸氣管外皮
 普金糸巻線一個 防水戸ノ破損
 人員ノ死傷ナシ

作業

兵器

機関

炭水補充

縦船機調整

石炭二百五十噸搭載

火災、損害の調査を、某由在室後部室の器具全部
 蒸気管の外に一部防水の防護蒸気圧力計四個
 電線大部分上部防護甲板一部電線在風堰障壁、
 一部屈曲一五、一六、脚在管部より漏れ管、接合
 及諸弁漏れ重油加熱器の漏れ管、焼損下
 火災損害復旧は約一週間に要する見込より復旧は少
 シク所置の加へハ第一、二、三、在室ノ十二をリ使用し航
 海ハ善丈キモ行動範囲ト速力ニ制限セシ最大速
 カハ二十哩ノ速ニ得可キ見込ニシテ第一、二、三、在室ヲ
 使用スル應急出動ニ善丈キ準備ヲ整ヘ其損害部

九月六日

經理

八分来得止限り至急復旧ニ着手ス

佐世保支金庫等ノ経費ノ是領ス(吳海軍陸軍部)ノ商

送分

日曜日 佐世保軍港十五番浮標

天候半晴 湿度八六度 晴間計三〇分 風向 南東 風力 一

行動

艦内午入

機関

火災損害部復旧工事 機関午入 台動準備

各疏水装置及蒸気漏洩部検査午入

雑件

内令第百四号ヲ、佐世保増加貨二七名来艦

月曜日 佐世保軍港十五番浮標

天候晴 湿度八六度 晴間計三〇分 風向 南東 風力 一

命令

矢野信邦 佐世保電線工事 八明日竣工ノ予定ナリト云 工事

進山 明日竣工ノ予定

九月七日

九月廿一日

行動
艦内午入

概用
火災損害部復旧作業概用午入 出動準備

各疏水装置及蒸気機編成部検査午入

火曜日 佐世保軍港十五番浮標

天候晴 温度八度 晴雨計三〇。二 風向東 風力一

進級試験 艦内午入

行動
概用
火災損害部復旧作業概用午入 出動準備

各疏水装置及蒸気機編成部検査午入

水曜日 佐世保軍港十五番浮標

天候晴 温度九度 晴雨計三九。三 風向北東 風力一

第貳戰隊司令官巡視 艦内午入

概用
火災損害部復旧作業概用午入 出動準備

行動
艦内午入

九月廿二日

横岡 火災捜査部復旧作業 横岡午入 各院水装置及

蒸気鍋敷部検査午入

經理 佐世保海軍工廠需品庫より艦需品より受領ス

衛生 月例夜砲検査及體重秤量施行

水曜日 佐世保軍港十五番浮標

天候曇 福度全度 晴間計元九一 風向南東 風力一

今連 報告

旗艦操練未剣へ信群 只今旺洋丸出港ノ際水艇左

舷発射管前部ノ衝突水線下ニ異状ナキモ発射管室

防衛甲級ノ煙生シテ左舷発射管破損アリ雨水

線下激少浸水アリ右舷砲散御届ス

浸水ハ激シキ多シ殆ント止メ得タリ

浸水ノ個所ハ「スカッパ」ノパイプニ取付ケ部ニシテ今艦員ノ手

ヲ慮急修理ヲ加ヘ最早浸水ノ量ヲ止レ

振津有信跡 旺輝丸ハ高智リ出港ヲ見合ハス少要アル
可キ故出港前鋪地若ク附近安全ナル所ニ錫位リ更
更ニ様々船傳ハ破損箇所修理要ス日数及入渠
少要有無直判定ノ見上ルヤ

振津矢野ハ検査官検査ノ結果入渠ヲ要シテ事日数
約ニ週間ノ予定発射管工事日数未定

明日午前火薬積込シ午後入渠ノ予定

行動
作業

部署教育

午後五時ニ十分出港スル旺輝丸着ク本艦ニ近接シ
衝突ノ危険迫リシカハ防氷船ヲ閉鎖ス全五分
旺輝丸本艦左舷水雷室ニ衝突セテ防氷船ヲ
穿ス

衝突ノ結果本艦損傷甚大ナシ左舷百四番砲

上甲板より水線より外舷に縦長孔陥凹を生じ最大陥
部一五。%¹/₁₀₀ 在艦壳射管故障ノスカッパレ取付部ニ
起シテ生じ漏水ス

兵器

旺洋カト衝突結果左側所被損

一前扉及球形部匙形部全部ニ涉リ右左方ニ移動

ニ匙形部球形部全体約十度右方ニ傾斜シ匙形

部右端より約四分ノ三ニテニテ屈曲

ニ球形部ヲ包容ス部ト外舷トノ接續部亀裂及前

扉緊締締螺屈曲

四匙形部鉤鐸及左軌道ノ屈曲

五内筒部軌道及旋迴軸層曲シ旋回ニ是合

六匙形部止具屈曲及取付螺釘屈曲

機関

大柴損等部復旧作業各疏水装置及蒸汽機

九月廿日

鐵部檢查午入

經理

衛生

吳海軍經理部了電達、經查佐世保支倉庫了受領、
鈴木直繼隊附了技揚、於此洗滌液設備件、
書數受領、

金曜日 佐世保軍港十五番浮標

天候雨 温度今度 晴有霧 八云 風向 南東
見方 三、四

報告

操練了某繼隊、信辨、便宜荒天準備了也

平戸機密第一二號了、洗無旺研九梅福件報

告次、如し(第一繼隊司令長官 吳鎮守府司令長官へ)

洗無旺研九梅福、件

大正五年九月十日、本繼佐世保軍港十五番浮標繫

留中、神戶市下山中道八丁目、本佐太郎所預航船

旺研九岩港、際午後五時五分、其船首了、以了始

ト直前、本艦水雷室左舷射管直前、衝突ヲ
 同船ハ本艦船側ヲ距ル約二十米ニ於テ左舷鑄鐵板
 其前進力ヲ抑止セシムルカ如キモ衝突ノ瞬間ニ至ル
 マテ銃橋ヲ前進シ衝突右后退スルヲ認メタリ
 本艦ニ於テハ同船著シ本艦ニ近接シ衝突ノ危
 険ナリ認メ五時三十分防水扉閉鎖ヲ命ジ衝突後
 海水ノ有無ヲ檢セシムルニ水雷室下防備甲板止メ
 インクスレニ浸水正ノ報告ヲ得タリ以テ直ニ防水幕ヲ
 台シ防水排水ニ従事セシムルニ浸水ハ「スカッパ」レ
 下端取附部破損ニ因スルヲ知ルヲ得ルヲ以テ應急
 處置ヲ施シ直ニ浸水ヲ防止スルヲ得高濤水機ヲ使
 用シ艦底ヲ檢査シ異状ナキヲ認メ同五時五十分防
 水幕及防水扉ヲ復旧セリ

此接觸ニ於ル本艦損害左如シ

一 水雷屋瓦艇側一吋装甲鉄ヲ其中央部ニ於テ約六吋半

由方ニ凹曲

ニ 助材及梁材各三本ニ微クノ屈曲ヲ生ス

三 水雷室艇側ニ接スル部ニ於テ下甲板ヲ約二吋歪曲セシ

四 左舷水雷管射管是形リ上及右方ニ約二尺先登

由シ同レレサレヲモ歪曲セシム

五 五カソフパーパイプ一本ヲ折損ス

作業
入渠準備 裝薬火工品陸揚 余ニテ荒天準備ヲ友

兵器
裝薬火工品全部陸揚 三河砲臺裝薬電氣火管

ヲ取外ス

概圖
火災換管部復旧作業各疏水装置及蒸氣機

或部検査中入

九月三日

今建
報告

土曜日 佐世係工廠第六船渠

天候半晴 温度全度晴雨計元九 風向北西 風力一

護船堤岸より其艦入渠の上損害箇所詳細調査
し修理工事並に台渠後台動準備完成迄要る日
数ヲ豫定し報告スル

第五戦隊機密第九号(第五戦隊司令部)受領後筆

一平ヤハ成ル可ク速ク修理ヲ完成シ特令ヲ返佐世係
ニ侍命スル

各艦ハ仕務ノ旨文字本限リ單獨訓練ヲ勵行スル

行勤

護船艇群凡ハ損害損害部復旧工事ノ為メ佐世係工

廠第六船渠ニ午前十時入渠 艦内午入

雜件

第三回陸軍輸送間格検査ノ為メ第五艦隊台動

検査

各疏水装置及蒸気漏洩部検査午入

九月五日

令連
報告

日曜日 佐世保工廠第六船渠

天候晴 温度午後度 晴雨計三〇。 風向南東 風力〇一

操練矢矧へ向駕本艦来りて百修理竣工同日出帆
其後発射管取付方、四日発射管取付一日要ス、六日

以後没務、言文ナシ、発射管修理ハ発射管自身ハ

異状ナシ是形ナシ、ナリテ、発射管取付、留メ公試発

射施行、及ハ九工廠ノ意見ナリ、若シ公試発射ヲ施行ス

トモ、福ニ日ハ止ラ要ス如何入ノキヤ御手合ヲ乞フ

操練兵隊長ヲ矢矧平ヤハ

平ヤ公試発射へ目下状況、艦ノ工廠意見、艦

長ノ所信トシ、御手合決定セラレシ

分隊兵隊 勅諭持歸

編隊並各隊帶指合ニ為流管操練、取付直シ

行動
作業
概観

海 軍 直

九月廿五日

衛生

掃本射候補生熱候証より佐世保海軍病院へ送附

月曜日

佐世保海軍廠算兵船渠

天候曇

温度七十九度 晴雨計元八分

風向西

令違

損破失利へ無憂 発射管工事ハ甚形ノ留大停

理ト認メテ繋留ノ塔造兵部員立合、又三四回ノ発射

試験ヲ行ヒ故障ナクハ特ニ公試発射ヲ施行ス、及ハ尤

工廠ノ意見ニテ本廠ノ所信ニ布右意見ニ一致スルコト

発射試験ニ行フ事ニ決定ス、本廠台標ニ由リ延

射シ発射管取付キ工事ニ入、渠中ニテ行フ下ニ

変更セシケル事ヨリ発射試験施行年定

左報告ス

作行

機関

編成ニ各算嘴ノ摺合ニ蒸気管挿入ノ取付ケ直シ

九月廿日

火曜日 佐世保工廠第六船渠

天候晴 温度八五度 晴雨計三〇・七 風向北 風力一

士氣振興ノ為ノ半艇相補方面ノ行軍即日啟艦

艦内舟入

概聞

編隊右舷索帶ノ摺ノ合ニ蒸氣管接半舟付直

九月十九日

水曜日 佐世保工廠第六船渠

天候晴 温度八五度 晴雨計三〇・〇 風向北西 風力一

士氣振興ノ為ノ半艇相補方面ノ行軍即日啟艦

艦内舟入

概聞

編隊右舷索帶ノ摺合ニ蒸氣管接半舟付直

九月十七日

水曜日 佐世保工廠第六船渠

天候晴 温度八十二度 晴雨計三〇・六 風向南西 風力一

排練矢射ノ熟慮 修理工事著ク進捗ノ甚クニ

報告

九月八日

行動

十日中、遠山三子日等乘同日、秋原発射機行、予定

黄海の戦い紀念会、行、二十八年秋、没官戦、勅勅及黄

海の戦い、同、勅勅捧讀、同、海戦、同、講話

全曜日 佐世保工廠第六船渠

天候快晴 温度八上度 晴雨計五〇・二 風向北東

艦隊入

兵器

艦隊調整

機関

編成、各集常備、倉庫、蒸気管、排子、取付、直し

衛生

十三日、通商、七、掃本、子、射候、神、場、集、排、子、取、付、直、し

九月九日

土曜日 佐世保工廠第六船渠

天候晴 温度八上度 晴雨計三〇・五 風向南

行動

釣原洗灌

兵器

前部旋回砲(壽砲)曾俯仰困難、ナリ、シラ、ム、テ、云

九月五日

九月五日

<p>麻子子砲身ヲ引當シ修理ヲ加ヘ復旧セシ結果良好其 原因ハ砲軸耳摺リ合ヒ不良ナリト因ル</p>	<p>左舷発射管修理完成</p>	<p>縦舵機調整発射管瞭中検査結果良好</p>	<p>編隊克右岸帯摺リ合ヒ蒸気管梅子取付直シ</p>	<p>日曜日 佐世保工廠第六船渠</p>	<p>天候乍晴 強風生度 晴雨計三六 風向南 風力〇上</p>	<p>船中入</p>	<p>副長心得海軍大佐前川義一乗艦</p>	<p>前副長心得海軍大佐三原卓次郎乗艦</p>	<p>編隊克右岸帯摺リ合ヒ蒸気管梅子取付直シ</p>	<p>佐世保海軍工廠第六船渠</p>	<p>月曜日 佐世保工廠第五船渠</p>
--	------------------	-------------------------	----------------------------	----------------------	-------------------------------------	------------	-----------------------	-------------------------	----------------------------	--------------------	----------------------

録 頁

今迄 報告	行動 作業	要旨	概況
<p>天候晴 湿度上度 晴雨計 5.6 風向 西 風力 0.1</p> <p>操縦 信頼 矢張り 急電 掃定 4.7 本日 出帆 左舷 燃料管 試験 発射 結果 良好</p>	<p>午前 8 時 至 10 時 出帆 王 香 珍 標 2 號 留 船 尾 2.7 ゲアンカ 1.7 後 午 繫 留 左 舷 発 射 管 試 験 発 射 可 行 の 結 果 良 好</p>	<p>装 薬 大 品 全 部 搭 載 三 時 砲 装 薬 更 分 1.2 電 氣 大 品 装 着 局 へ</p>	<p>重 油 一 〇 噸 搭 載</p>